



New

## アルバータ大学ESLプログラム

8月7日～26日



8月7日から26日まで、岐阜大学の学部学生29名がカナダ・アルバータ大学のESLプログラムに参加しました。

本プログラムは、岐阜大学での2カ月の事前研修と、現地での3週間の語学研修や異文化理解の授業といった、様々なアクティビティを体験するプログラムで構成されています。学生たちは現地でのすべての日程をホームステイで過ごしました。

今年は本プログラム開始初年度であり不安もありましたが、学生たちは生き生きと留学生活を送り、英語能力の向上はもちろん人間的にも大きく成長して帰ってきました。

なお、11月2日から22日の間、本学図書館1階にあるアカデミック・コアにおいて、現地での様子を撮影した写真を展示します。また、最終日は学生による報告会「U of Aに行ってみよう会」を開催し、広く一般の学生も参加できる場を設ける予定です。



## 毎春開催 海外留学フェア

4月19日

4月19日に岐阜大学海外留学フェアが開催され、新入生をはじめとする77名の学生の参加がありました。当フェアは、留学に必要な語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報を提供し、留学の促進を図ることを目的として平成24年度より毎年実施しています。

今回のフェアでは、本学で実施されるプログラムの説明のほかに、必要な語学能力試験の概要説明や留学経験者からの留学体験報告がありました。また、海外での自己健康管理についての説明も併せて行われました。参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、説明終了後も発表者に個別に質問をする姿が見られるなど、留学への関心の高さがうかがえました。

岐阜大学は、今後もこうした情報提供や相談の機会を積極的に設けていきたいと考えます。





毎年開催

## 海外渡航時の危機管理オリエンテーション

7月5日



7月5日に危機管理オリエンテーションが開催され、104名の学生及び教職員が参加しました。このオリエンテーションは、留学を控えた学生や留学を考えている学生、海外旅行をする学生などを対象に、海外での危機管理に関する幅広い知識を習得し、自らの危機管理能力を向上する機会を得るために開催されるものです。

参加者は、近年の海外の治安動向や海外で生活するうえで注意すべきこと、実際に問題が起こった場合にどう対処すればよいかなどの講演を聞きました。普段知ることのない海外の治安情報が得られるよい機会ということで、参加者は講演に熱心に聞き入っていました。

岐阜大学は、今後もこうした情報提供や相談の場を積極的に設けていく予定です。



Renewal

## English Circle of Friends

グローバル推進本部では、昨年度まで開催していたEnglish Loungeの形態をさらに発展させたEnglish Circle of Friendsを実施し、海外経験豊富な本学教員がコーディネーターとなり、気軽に英会話を楽しめる場を学生や教職員に提供しています。

6月19日、7月3日は、岐阜県庁で国際交流員として活躍しているガエル・ラグロスさん(フランス出身)、ピーター・コリンズさん(英国出身)、セヴギ・チェヴィックさん(トルコ出身)をゲストスピーカーとして迎え、留学経験や海外で生活するコツについての講演を行いました。

English Circle of Friendsでは、学生や教職員の皆さんにキャンパスにしながら国際交流が体験できるよう、今後も様々な機会を提供していく予定です。



## どんなこともやがて きっと過ぎゆくでしょう

工学研究科博士課程 ゴーシャン ワイ  
(GO SIAN HUAI)



ミャンマー



2015年に岐阜大学に来てから、すでに2年がたちました。来日した当初は馴染めないことがたくさんあり、経験したことのない多くの挑戦がありました。

そして2年後、私が明確に認識したことは、「留学生としての経験は私の人生全てにとってのよき師である。」ということです。この経験から、私はこの記事を読む留学生の皆さんを応援したいです。どんなことが起きて自分自身を信じましょう。どんな状況でもあきらめないでください。他の人と自分を比較しないでください。

人類は多様な価値観を持っています。「私は私」という自己肯定の概念を有しています。困難に直面した時はとてもつらいものですが、それを他の人と共有し、励まし合うことによってその試練に打ち勝ったとき、その経験はよい思い出に変わるでしょう。大学では決してあなた一人ではありません。

私の見るかぎり、岐阜市は美しい山々に囲まれ、きれいな水が流れています。岐阜大学の豊かな自然環境を楽しみ、自分の国のみならず日本のためにも、素敵な学生になれるよう勉学に励みましょう。どんなこともやがてきっと過ぎゆくでしょう。

ですから皆さん「がんばりましょう！」

(編集:グローバル推進本部)



## 毎夏開催 サマースクール(受入)

6月28日～7月26日



6月28日から7月26日の間、岐阜大学サマースクール(受入)が実施されました。本プログラムは岐阜大学の大学間学術協定校から参加者を募り、およそ1カ月に渡って日本語及び日本文化を学習し体験する夏期短期プログラムです。

今年は、ノーザンケンタッキー大学(アメリカ合衆国)、シドニー工科大学(オーストラリア)、木浦大学校(韓国)、電子科技大学(中国)、マレーシア国民大学(マレーシア)から計18名の学生の参加がありました。

学生たちは日本語の授業を受け、陶芸体験や郡上でのホームステイプログラム、大相撲名古屋場所観戦、鶴飼観覧、浴衣の着付け、能・狂言を体験しました。

日本語や日本文化の体験を通して、より日本のことを知り好きになってくれることを願っています。

## 毎夏開催 外国人留学生見学旅行

9月6日・7日

グローバル推進本部では、外国人留学生に係る教育活動の一環として、留学生に日本の自然、文化、歴史(世界文化遺産等)及び産業を理解してもらうとともに外国人留学生相互の親睦を図るために、毎年見学旅行を実施しています。

今年度は、留学生40名、引率3名の計43名が参加しました。1日目は、世界文化遺産・国宝姫路城を訪れ、観光ガイドによる案内を聞きながら城内を巡りました。2日目は、グリコピア神戸でお菓子の工場見学の後、神戸アニメストリート及び神戸南京町中華街を散策しました。

見学地で多くの日本文化に触れ、思い出に残る有意義な見学旅行となりました。



### 母国への貢献のために



シエラレオネ

留学生の  
声

連合農学研究科博士課程 **ダラミー モーゼス アーメド**  
(DARAMY MOSES AHMED)

開発途上の国に住む人々が考えるように私も、日本で学ぶということは自分のキャリアを磨く大きなチャンスだと思っています。しかし留学することが決まった時は、日本と母国シエラレオネの生活習慣、食事、気候などの違いに多少不安を感じました。ところがいざ日本に来てみると、そのような危惧もとり越し苦労となり、今では日本の生活に溶け込んでいます。遠くに連なる山々や古い町並みを見ながら、岐阜市内の閑静な住宅街を夕暮れ時に散歩するのが好きです。

岐阜での色々な行事やお祭りには、まだそれほど多く参加していませんが、今年は幸運にも花火大会を見ることができました。あのような大輪の花火を目にしたのは初めてで、大変感動しました。岐阜にいる間は毎年花火大会に行こうと思います。

私は将来、シエラレオネの作物生産の改良に貢献できればと

願っています。母国の土壌はもともと栄養に乏しく、作物の中でも特に米の安定した生産に影響を与えています。岐阜大学を卒業後は、シエラレオネの土壌管理と作物生産問題にかかわる研究者になろうと思っています。

(翻訳:グローバル推進本部)



## 第4回国際ワークショップ

inアンダラス大学

7月17日・18日



連合農学研究科は、7月17日、18日にアンダラス大学(インドネシア)にて第4回国際ワークショップを開催しました。本企画は、大学のグローバル化と現地産業界との交流の推進を目的とし、平成26年度から実施しています。

17日は、『持続的農業と食料供給のための最新ポストハーベスト技術研究』を主題に総勢121名の参加がありました。

18日は、アンダラス大学に設置した共同実験室の開所式を開催しました。この共同実験室は、同大学の管理のもとIC-GU12加盟大学の教員と学生に開放し、ポストハーベスト工学関連の研究拠点となります。

## International Symposium 2017

8月28日～30日



連合農学研究科では、8月28日から30日に連合大学院研究科棟にてInternational Symposium 2017を開催しました。

28日、29日は『Soil Management for Sustainable Agriculture』をメインテーマとし、総勢59名の参加がありました。なお、この様子は静岡大学及びスプラズ・マレット大学(インドネシア)にテレビ会議システムで配信されました。

29日は学生25名がポスターセッションを行い、優秀発表学生4名にポスター賞が授与されました。

30日は海外の研究者17名(中国、インドネシア、ベトナム)及び大学の教職員8名がStudy Tourとして、岐阜県西部に位置する谷汲池の貯水施設と徳山ダム施設の視察を行いました。周辺地域の治水事業の現状と自然環境保全の重要性についての理解が深まる有意義なツアーとなりました。

## 第1回特別支援教育国際シンポジウム

8月29日・30日

8月29日、30日にタイのバンコクで「第1回特別支援教育国際シンポジウム：学校から職場へ」が開催され、8カ国から約500名が参加しました。岐阜大学と2015年3月に大学間学術交流協定を締結したタイ国教育省基礎教育委員会事務局(OBEC)が主催し、文部科学省、岐阜大学が支援して第1回を開催する運びとなりました。29日の開会式では岐阜大学長の開会挨拶後、文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当)の基調講演が行われ、日本の優れた取り組みが紹介されました。その後、各国の招へい者や本学教育学部長、同応用生物科学部教授による発表や、研究者、学生等によるポスター発表等が行われ、盛会のうちに終了しました。

岐阜大学は、今後もタイの特別支援教育への支援を続けていきます。



## 忠北大学校医学部—岐阜大学医学部 学生交流プログラム10周年記念式典

8月9日～13日

8月10日に医学部本館大会議室にて、忠北大学校医学部—岐阜大学医学部学生交流プログラム10周年記念式典が執り行われ、忠北大学校医学部と本学医学部から教員や学生、関係者など、合わせて約40名が出席しました。

同プログラムは2008年に開始以来、隔年で相互に学生の受入れ及び派遣を行っており、両学においてこの10年間で250名近くの教員及び学生が携わってきました。

今年10周年を迎えた同プログラムは、8月9日から13日の間、岐阜市民病院の視察や英語シンポジウムなどが学生主体で行われ、また、忠北大学校医学部の教員による本学医学部長への表敬訪問も行われました。

